

人権啓発ネットワーク大東機関誌 第16号 2019年11月

# ぬくもり

編集と発行 人権啓発ネットワーク大東  
〒574-8555 大阪府大東市谷川1丁目1番1号  
電話072-870-0441  
FAX072-872-2268

## い い となりの生き生きサン

ここでは、大東市の人権推進につながる  
取り組みを行っておられる方々や団体の紹介をさせていただきます

### リトミックで、キラキラ・ワクワクを！

今回の生き生きサンは、音楽教室の中納由嘉（なかのゆか）先生です。

中納先生は、色々な施設でリトミックを教えておられます。リトミックとは、認知症の方、障がい者、元気いっぱいの子どもたちなどを対象に、音楽に合わせて紙ふびきやスカーフ、人形などなどの小道具を使って感性を引き出し、全身を使って音楽を学ぶ方法です。



手や足を使って脳を刺激するので、例えば、手足が動かなかった認知症の方に「桜」の曲を聞かせると、脳の記憶から音楽に合わせて踊りだします。発達障がいが原因で言葉や指示をうまく聞き取ることができない子どもでも、音楽は人間の脳に直接的に働きかけるので、自ら進んで聞いてくれるそうです。

音楽の強弱にノって動くだけでも良いのです。身体で体感し、音の速さを感じ、ニュアンスに合わせて動きだすうちに、お友達との社会性がうまれたりします。また、お母さんとスキンシップをとりながら歌を聞いてセロトニンを出す、これがリトミックの脳トレだそうです。リトミックの可能性は無限大です。



中納先生は、大東市の小学校の支援クラスや、発達障がい児童施設でも指導されています。音楽と先生の歌が始まると、子どもたちの目がキラキラと輝き、自由に身体で表現し、自分を出してくるのがよくわかります。子どもだけでなく、大人の私もワクワクと音楽にのり、不思議な感じですが、気持ちよく身体も軽く、楽しい楽しい経験をさせていただきました。

「キラキラ・ワクワクする項目を見つけて、感動と成功する喜びの数をいっぱい散りばめてあげる。それが集中力や、やる気、向上心に結び付き、将来素晴らしい夢を達成！できれば」と、嬉しいお話しをしていただきました。  
(レポーター なっちゃん)

## 正しい理解・関心を持つことが大事



ハンセン病療養所（旧収容施設）を見学

昨年から、人権啓発ネットワーク大東では、ハンセン病に対する隔離・差別について連続して学び、交流をしてきました。毎年恒例のフィールドワークでも、岡山県にある「邑久光明園（おくこうみょうえん）」と「長島愛生園（ながしまあいせいえん）」を訪ねました。

会員19名、一般から9名、事務局3名の計31名がバスに乗り込み、昼前には邑久光明園に着きました。明るく清潔で、病院も学校も宗教施設も全てがそろった小さな街です。でも、海に囲まれ、「人間回復の橋」が1988年に建設されるまで、船でしか行き来ができない閉ざされた街でした。発症した家族と棧橋で別れる悲劇を何度もうかがいました。



邑久光明園では、山本自治副会長から「ハンセン病と人権」のご講演をいただきました。当時の国は「隔離・根絶」をめざし、通報も奨励し有無を言わさず収容しました。「患者作業」（土木・建築など様々な作業）で負傷しても、痛みを感じないため重症化しました。逃げられないよう患者同士の結婚が勧められましたが、子が生まれぬよう断種や墮胎が当たり前に行われていました。脱走や、自殺した人も大勢いたそうです。患者は、家族に「迷惑」がかからないよう偽名を使います。医療が進み、ハンセン病がすぐに完治する病気で、感染力も非常に弱いと分かり、隔離や差別に対する補償を求める運動が起こったときも、特に家族への「迷惑」を心配して内部でも様々に対立があった…などなど、生々しい貴重なお話をいただきました。

現在は、様々な困難を乗り越え、また「ここには差別は無い（世間に出れば差別がある）」として暮らし続ける方々が多数、余生を過ごされています。そして、一般の特別養護老人ホームや保育所などを誘致し、地域に開放された場所にもなっています。

午後は、近くにある長島愛生園の見学です。歴史館での研修は「今、ハンセン病患者はいません！」



という言葉から始まりました。すぐに完治するので、「後遺症がある障がい者＝元患者」がいるだけです。平均年齢85歳で、25%は目が見えないそうです。指も無い方は、点字を舌で読むそうです。熱さを感じないため、ヤケドを防ぐため二重になったコップが印象的でした。園のパノラマ模型に「自殺場所」と書かれた崖があり、たずねると「掲示しようか迷ったが事実なので…」と答えられました。

その後、園内を歩きました。収容棧橋や監禁室、クレゾールの消毒風呂跡などを見学し、当時の閉ざされた様子と絶望を想像しました。最後に、高台にある納骨堂で黙とう・献花をしました。ここには、遺族に骨を返せない3,682柱が眠っておられます。「この方々を追い込んだのは、国の法律だけでなく周囲の目＝私たちの目である」「同じような差別に苦しむ人を新たに作らないために、正しい理解・関心をもつことが大事」と訴えられました。

今後は、これら旧収容施設群を人権学習の場とし、世界遺産もめざすそうです。「あらゆる差別や苦しみを無くす取り組みが進むなら、自分たちの人生も、無駄なものではなかったと言える」という言葉を深く胸に刻みました。

（レポーター：あき）

# 親と子で平和を考えるつどい



今年の「親と子で平和を考えるつどい」は、9月21日（土）午後1時より、大東市市民会館2階キラリエホールにて開催されました。たくさんの方が参加され、毎年このような機会があることの重要性を改めて感じました。

司会は内田祥子さんと、腹話術の相棒「ハックン」。軽快なやりとりで会場から笑い声も響きつつ、平和について「おいしいものを食べたり、お布団で眠ったり、友だちと遊ぶときという当たり前の幸せが、戦争が起こると当たり前ではなくなってしまう」と、子どもたちにも分かりやすい導入をしてくださいました。映画に入る前に、ピースおおさか（大阪国際平和センター）へ行った「平和バスツアー」の報告が三箇小学校の児童からありました。その中で、「（現在もある戦争などの争いを）止めることができるのは私たち子どもだと思います」という一文があり、心強く感じるとともに、戦争の無い世界を作っていない我々大人の責任を問われているのだと気の引き締まる思いでした。



第二部の映画は「この世界の片隅に」。戦時中の広島と、戦艦大和で有名な呉（くれ）を舞台とした映画です。

主人公は広島市内に住んでいるのんびりした性格の**すず**という女性です。つつましく幸せに暮らしていた**すず**が、呉に嫁いで行った後、戦争は激化していきます。空襲に備え防空壕を整備したり、食糧難を工夫で乗り越えようとする様子などが、**すず**ののんびりした性格を通して、より等身大で描かれているように感じました。

幾度も空襲に遭う描写があり、**すず**も不発弾の爆発で片腕を失い、目の前で姪を喪（うしな）ってしまいます。周囲の人たちは「**すず**だけでも命があってよかった」「建物もこの程度の被害でよかった」など「よかった」と口にします。それに対し**すず**は、「何がよかったのか、私には分からない」と絶望します。「命があるだけよかった」と感じてしまう状況や、「何がよかったのか分からない」という憤りなどが私自身の感覚とも結びつき、非常に苦しいシーンでした。

また、戦争が終わり敗戦を告げる放送（玉音放送）を聞いたとき、**すず**は「最後の一人まで戦うんじゃないか！」と激昂します。「私たちのこれまでが飛び去っていく」とも。戦争が終わり、安堵や開放感などではなく、自分たちのこれまではなんだったのか（何のために姪は亡くなり、自分も腕を失ったのか）ということに怒りをあらわにする**すず**の姿は、私の想像していた実感と異なり、またひとつ戦争の苦しみのリアルな姿なのかと感じました。

会場には同時開催の平和パネル展「ヒロシマ・ナガサキの実相」として、被爆直後の写真や、ヒロシマ記者事業の報告・感想文などの展示もあり、学ぶことの多い一日でした。

（レポーター：卓ちゃん）

## 「平和バスツアーに行って」

前田 結香



みなさんの中に、戦争を経験した人は、何人いるでしょうか？

たぶん、いないか、いるとしても、1人か2人ぐらいだと思います。

私は、なぜ戦争したのかが、とてもふしぎでした。なぜなら、世の中には、戦争をしないように、と努力している国があるからです。

なぜ、そのような努力をしようとししないのか、どうして、戦争をしてまで、ほしいものを取ろうとするのか、なぜ、そのために、たくさんの人が殺されるのか。どうして、戦争をするのか、というふしぎが、私の頭の中で、次々と出てきます。

どうしてこんなにふしぎが出るかというと、戦争が、きらいだからです。

令和元年、8月1日、平和バスツアーに参加しました。そして、ピースおおさかを見学しました。

ピースおおさかには、大阪府全体が、戦争はしたくない、というメッセージの入った箱が、1階にありました。もし、いけるのなら、一度行ってみてください。

それから防空ごうの体験もあります。

戦争中のくらしはいつも命がけだと分かりました。

このような戦争が、二度と、おこらないように、それから、まだ、戦争をしているところがあります。これをとめられるのは、今の大人ではなく、私たち、子どもだと思います。

(※表記については原文のまま引用しています)

### ★ 会員募集

— 活動内容 —

人権意識をたかめるための研修会などへの参加・参画。

人権尊重の理念を広く市民に広げるための啓発・広報活動など。

会費等はありません。



NEW

### Facebook(フェイスブック)

人権啓発ネットワーク大東の活動がみなさんに届くよう、  
Facebook ページを開設しました！ぜひ、フォローお願いします！



(Facebook で「人権啓発ネットワーク大東」を検索！↑)

### ★ ヒューマンライター

大東市で人権推進につながる取り組みを行っている方々の取材をしていただける方  
(ヒューマンライター) を募集します。

TEL : 072-870-0441

FAX : 072-872-2268